

第 1 回環境審議会(書面開催)における各委員からのご意見

委員	意見
高田委員	<p>IV. めざすべき将来像 2025年大阪・関西万博については、めざすべき将来像への通過地点として取り組むべきで、一次的な祭りにならないよう検討していく必要がある。特に新型コロナの影響は長引くものと考え、観光客に向けたものにならないよう、留意する必要がある。中止も含め、再検討願いたい。</p>
中嶋委員	<p>環境政策を単独のものとして捉えず、広範な政策と連動するかたちでおまとめいただいているものと理解しました。欧州グリーン・ディールの大阪版となることを期待しています。その上で、部会報告では、持続可能な社会への移行が強調されています。ただ、部会長意見にもありますように、近年の事例からも新型コロナウィルスや自然災害といった予測できない大きなインパクト、破壊的ダメージを受けるリスクは高まっているとよい状況です。そのなかにあって、どのようにしなやかな回復をはかるかが、都市の存続において重要な鍵となってきます。歴史はそのことを実証済みです。</p> <p>物質面、経済面のみならず、人間の精神や生活、コミュニティといったソフト面にわたる大きな課題です。部会報告では、こうしたレジリエンスの観点が弱い印象を受けました。</p> <p>グリーン・トラディションを可能な限り早期に実現させるとともに、レジリエンスをどう獲得していくかが重要かと思えます。「計画」という方法では捉えきれない、すべてを解決できないのが、レジリエンスの問題の難しいところかと思えます。冗長性といった曖昧性の概念の導入も必要かと考えています。</p> <p>アフターコロナ、ポストコロナの社会と環境を見据えた政策は、世界共通のテーマとして興味深いです。大阪ならではの提案があるといいですね。</p>
三田村委員	<p>部会報告の10ページ目の19行目について、『「持続可能な社会」の欠片』の「欠片」は表現としてよくないのでは？</p> <p>「欠片」(かけら)は、「欠けた破片」、「ごく僅かな量」なので「バラバラで、小さな結果」的なイメージになり、次行の「相乗効果を生み出しつつ」につながらないように見えます。各主体の「持続可能な社会」への取り組みは大小、多様なものがあると思えます。</p> <p>「欠片」という表現は、「府は、府民の取り組みなんか小さなもの」と評価しているという変な誤解を与えます。</p> <p>修正案として、『府民を中心とした各主体が進める一つ一つの「持続可能な社会」への取り組み』でいかがでしょうか？</p>
矢野委員	<p>コロナパンデミックにより、人間の経済活動が地球環境に如何に負担をかけていたかがわかったため、SDGsは推進されると思われる。</p>